

事業者向けごみに関する
アンケート調査の結果について

令和4年8月
常滑市

調査概要

1 調査の目的

本調査は、令和4年度に行う『常滑市ごみ処理基本計画』の中間見直し及び『次期ごみ減量化推進計画』の策定に向けた情報収集及び今後の事業系ごみの減量に向けた取組施策の参考にするため実施いたしました。

2 調査の方法と配布回収数

■ 調査の方法

調査地域	常滑市全域
調査対象者	市内事業者から無作為に抽出した 1,000 社
調査期間	令和4年6月10日（金）から7月1日（金）まで
調査方法	郵送で送付し、返信用封筒及びインターネットで回答

■ 配布回収数

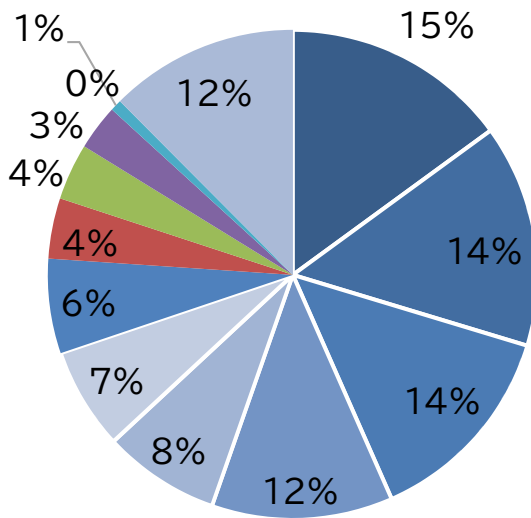
配布数	回収数	回収率
1,000 社	401 社	40.1%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は、その設問に対しての回答者数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第1位で四捨五入しております。
- 回答結果の割合で0.5%未満は0%と表記されます。

調査結果

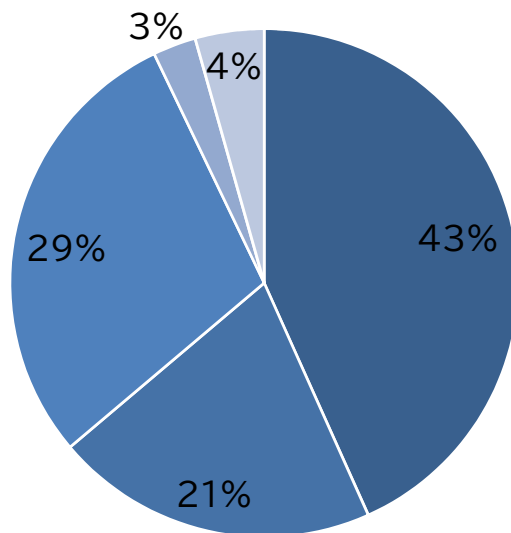
問1-1 会社の事業形態は 回答:401社



- 小売店 60社
- 工場・製造業 59社
- サービス業 55社
- 建設業 48社
- 飲食店 31社
- 運輸・通信業 27社
- 飲食料品を取扱う小売店 25社
- 医療機関 16社
- 不動産業 15社
- 福祉施設、介護施設 12社
- 理容・美容・クリーニング店 3社
- 金融業、保険業 0社
- その他 50社

小売店が15%と最も多く、工場・製造業とサービス業が14%と次に多かったです。

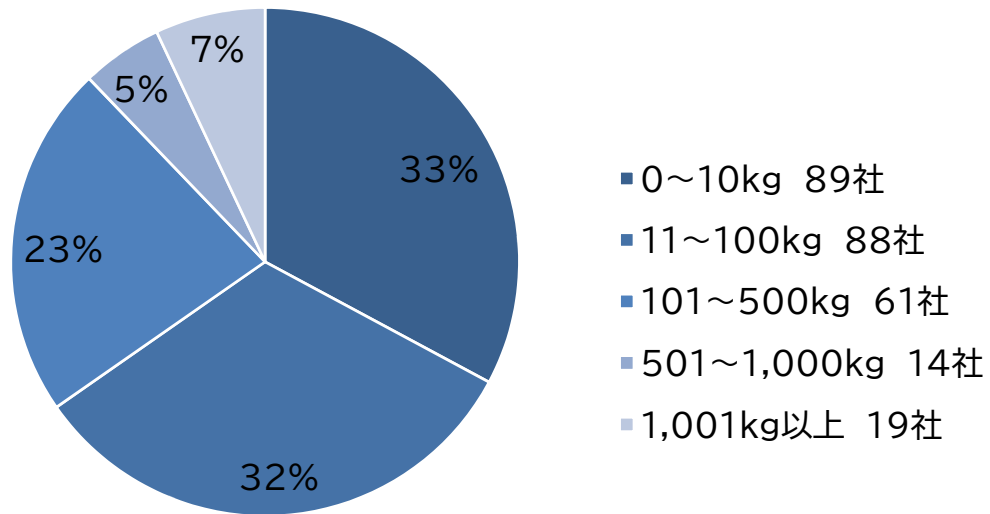
問1-2 会社の従業員数は 回答:365社



- 1~5人 158社
- 6~10人 75社
- 11~50人 106社
- 51~100人 10社
- 101以上 16社

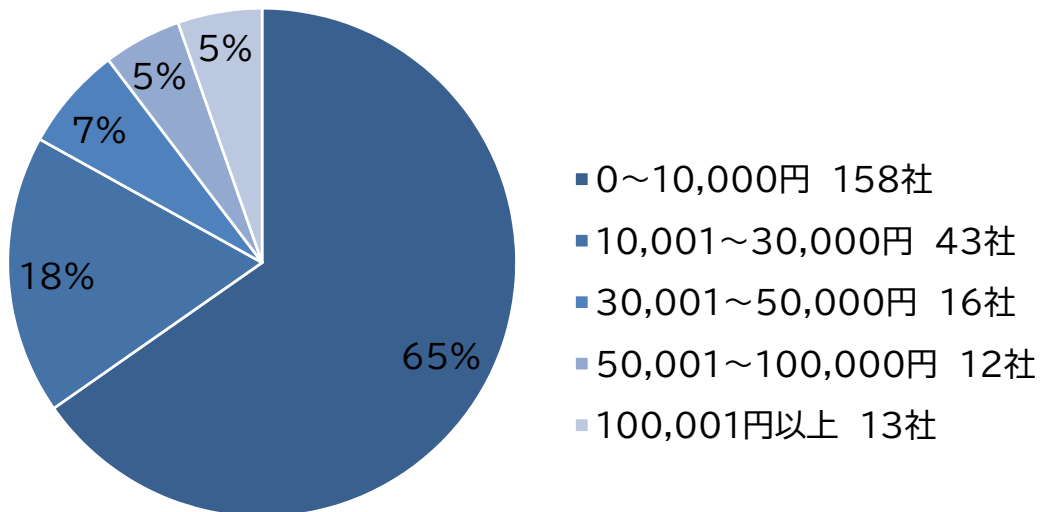
1~5人が43%と最も高く、51~100人が3%と最も低かったです。

問2-1 会社から発生する1ヶ月分のごみ量 回答:271社



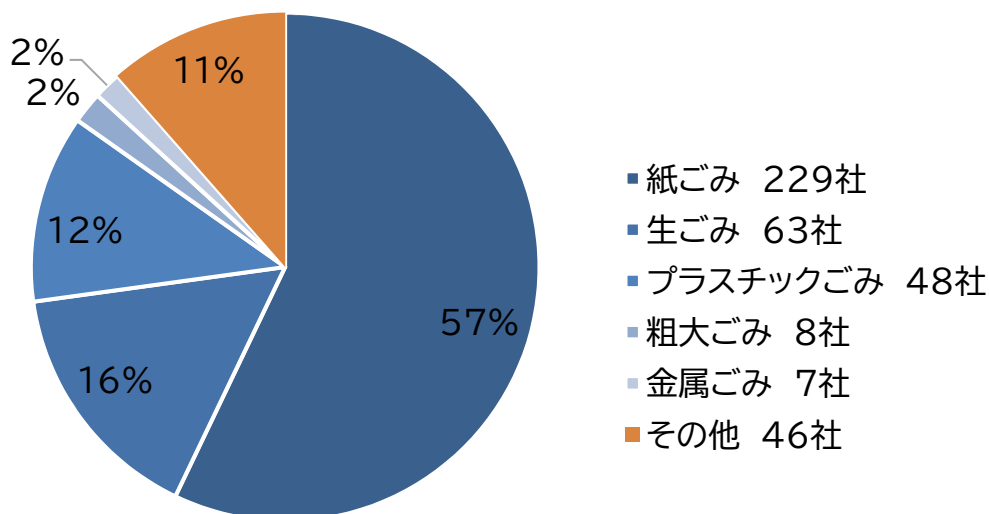
0~10kgが 33%と最も高く、501~1,000kgが5%と最も低かったです。

問2-2 会社から発生する1ヶ月分のごみの処理費用 回答:242社



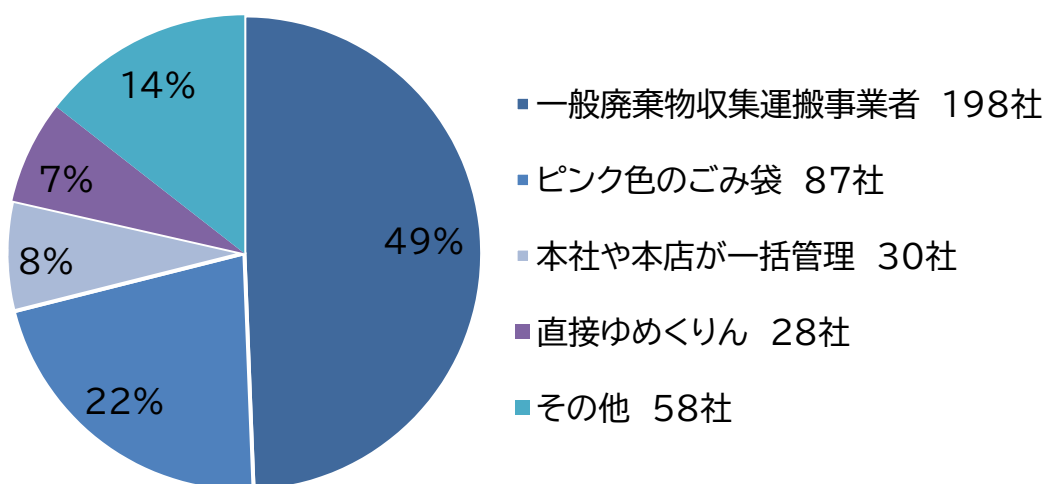
0~10,000円が65%と最も高く、50,001~100,000円と100,001円以上が5%と最も低かったです。

問3 会社から発生するごみで最も多いものは 回答:401社



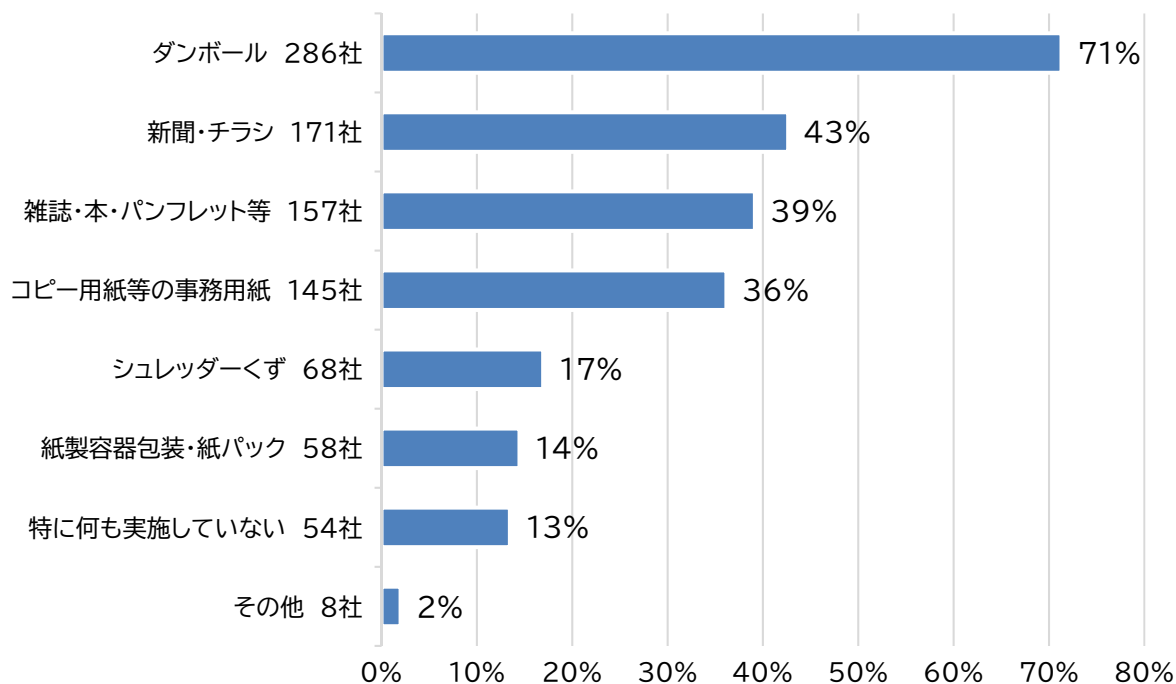
紙ごみが 57%と最も高く、生ごみが 16%、プラごみが12%と次に多かったです。

問4 発生したごみはどのように処理していますか 回答:401社



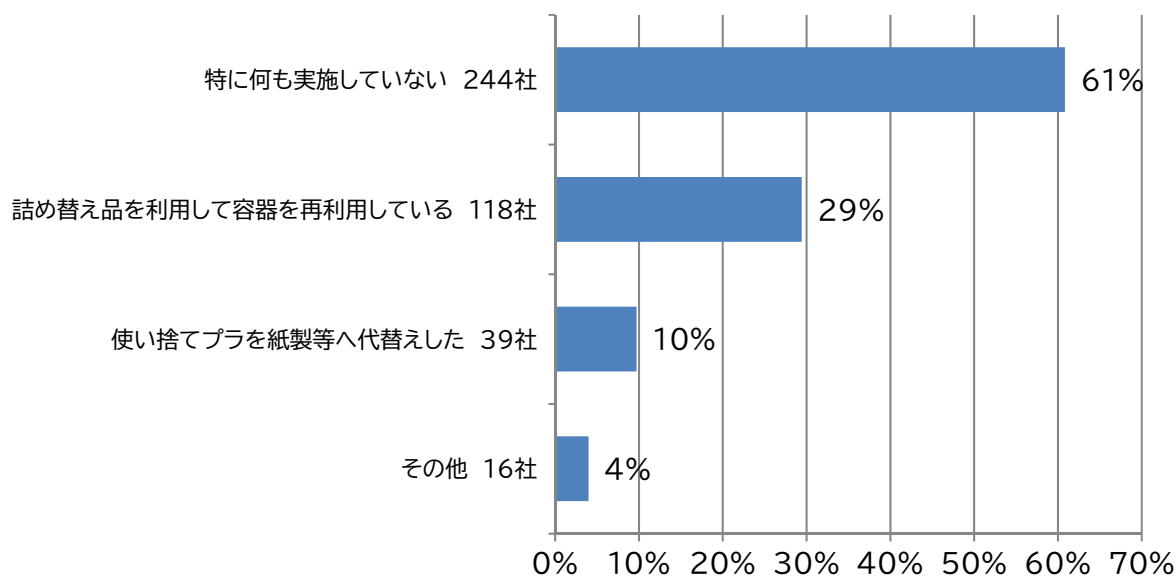
一般廃棄物収集運搬事業者が処理するが 49%と最も高く、直接ゆめくりんに持って行くが7%と最も低かったです。

問5 紙ごみ削減のため、リサイクルしているものは N:947



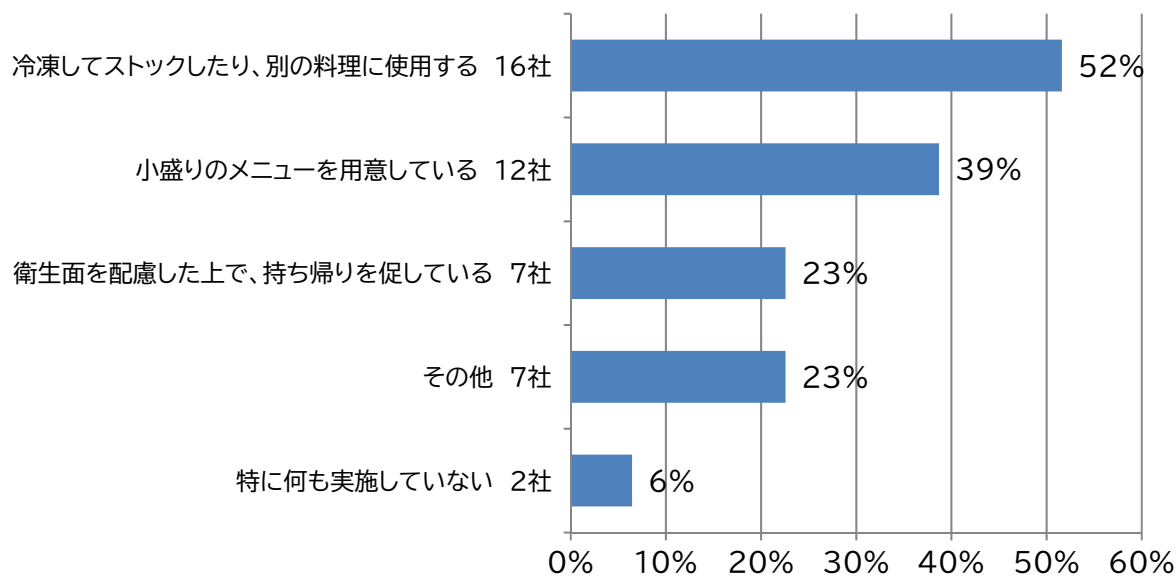
ダンボールが 71%と最も高く、特に何も実施していないが 13%と最も低かったです。

問6 プラスチックごみの削減のため取り組んでいることは N:417



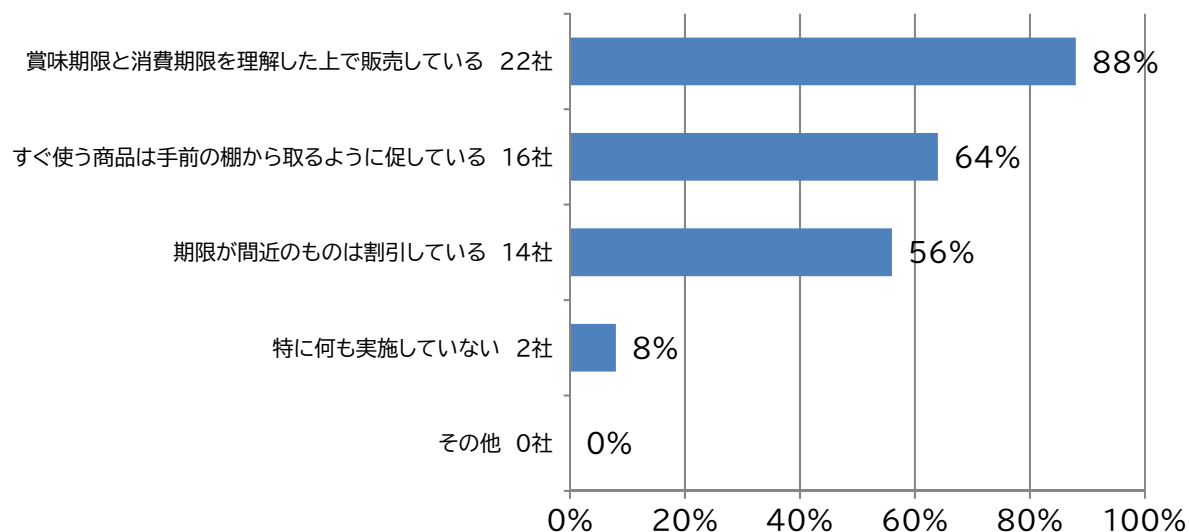
特に何も実施していないが 61%と最も高く、次に詰め替え品を利用して容器を再利用しているが 29%と次に高かったです。

問7 「飲食店」の事業者で行っていることはありますか N:44



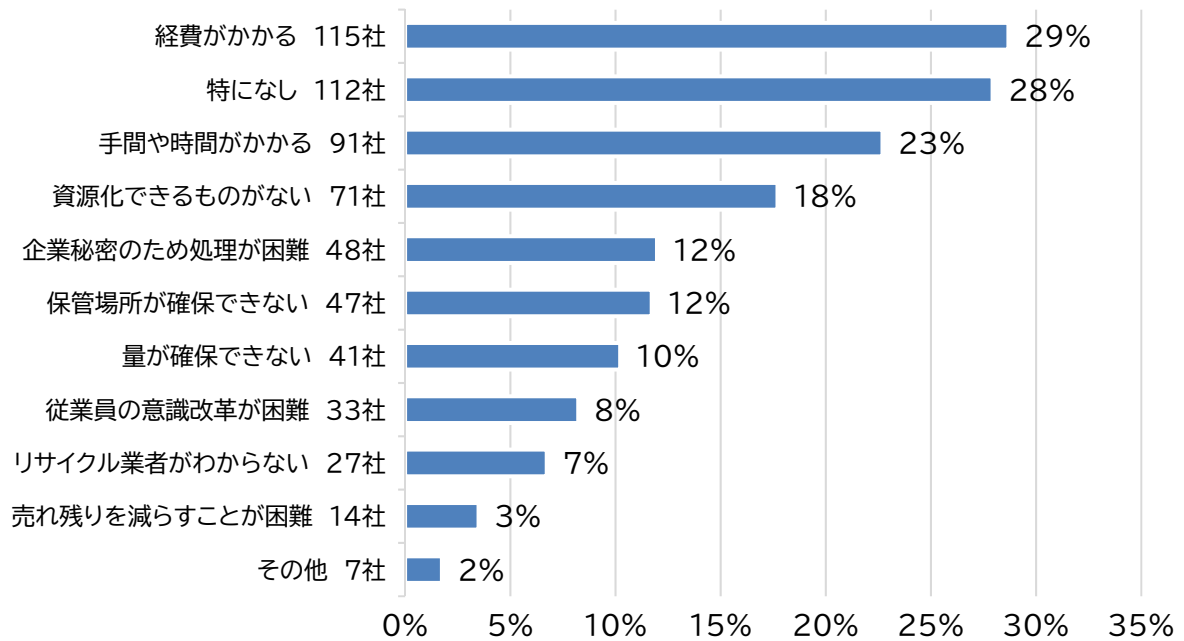
冷凍ストックしたり、別に使用するが52%と最も高く、特に何も実施していないが6%と最も低かったです。

問8 「飲食料品を取扱う小売店」の事業者で行っていることはありますか N:54



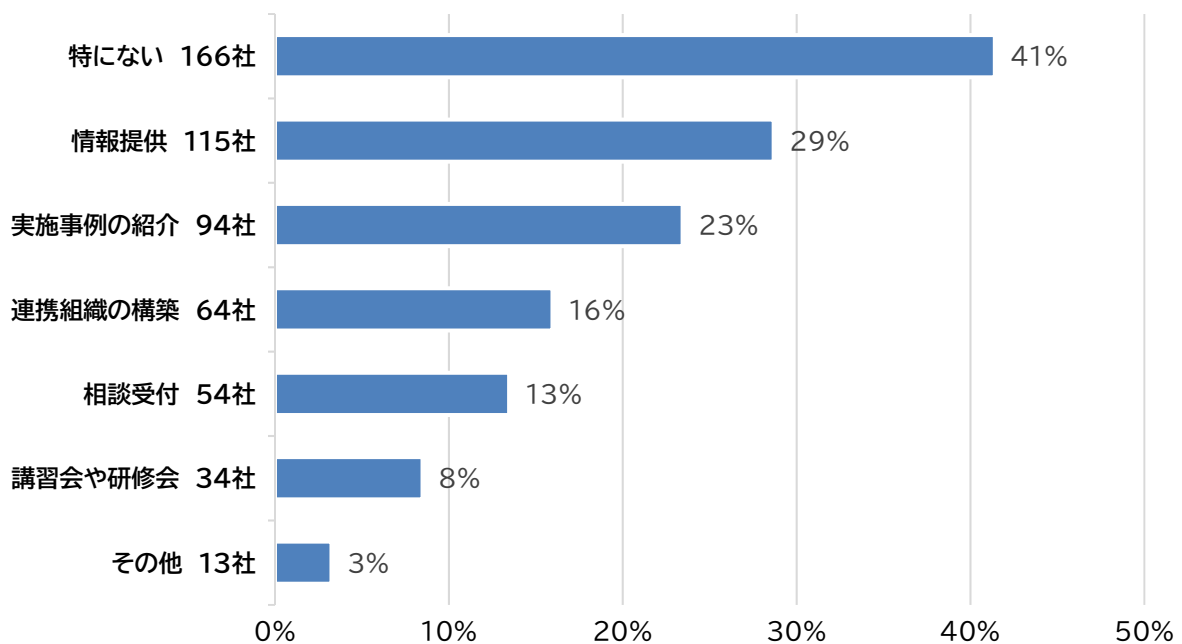
賞味期限と消費期限を理解した上で販売が88%と最も高く、特に何も実施していないが8%と最も低かったです。

問9 ごみの減量及び資源化を進める上で課題となるものは
N:606



経費がかかるが29%と最も高く、売れ残りを減らすことが困難が3%と最も低かったです。

問10 ごみの減量化・資源化を進める上で、市に対してどのようなことを期待しますか N:540



特になしが41%と最も高く、情報提供が29%と次に高かったです。